

事務事業チェックシート

事務事業No 621 事業名 少年自然の家運営事業 (H28終了)

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業種別	
事業期間	～
事業実施の根拠法令	少年自然の家条例
関連個別計画	
担当課・担当課長 (Tel)	青少年国際交流施設準備事務局 局長 吉岡泰輝 (459) 5551
関連課	

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		教育総務費	
	目		少年自然の家管理費	
	大事業		少年自然の家管理事業	
事項		少年自然の家運営事業		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か	事業内容				
	豊かな自然環境の中で、自然観察や探求など自然に親しむ活動や伸び伸びとした野外活動を通し、豊かな情操や創造性を養うとともに集団生活訓練を通じて学校や家庭では会得し難い自立、協同、友愛、奉仕等の尊さを体験的に学習させ、たくましい少年の育成を期する。	心身ともに健やかな少年の育成を目指す場として、家庭教育、社会教育、学校教育の3つの領域の有機的連携を図る場として、家庭や学校では得難い効果を図るため、自然と接することにより自然を愛し、自然を尊ぶ態度を育てるとともに、寝食を共にする集団宿泊生活を体験させることにより仲間作りの場として、連帯、協調の意識を育て、野外活動や体育等様々な活動を通じて絆を深めるとともに意欲的にたくましく生き抜く力を育てる。施設老朽化による建替のため平成28年7月31日をもって、少年自然の家としての役割を終える。その後、8月1日からは青少年国際交流施設準備事務所となり施設の整備終了まで事務を執り行い、閉所中は、新施設運営の形態及び閉所時に取り組む事業について調査研究している。				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		活動事業 (主催事業の実施・利用団体への指導、助言)	活動事業 (主催事業の実施・利用団体への指導、助言)	活動事業 (主催事業の実施・利用団体への指導、助言) 4月1日から7月31日まで開所。9月から現存建物解体撤去。		

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	1,822	1,384	1,748	1,301	1,511	718				
伸び率 (%)	-	-	▲4.1%	▲6.0%	▲13.6%	▲44.8%	▲100.0%	▲100.0%	-	-
人件費										
正規職員	15,700	15,321	15,178	15,200	15,178	9,262				
正規職員以外	4,014	4,492	4,492	5,615	4,492	2,682				
小計	19,714	19,813	19,670	20,815	19,670	11,944				
国庫支出金	0	0	0	0	0	0				
県支出金	0	0	0	0	0	0				
市債	0	0	0	0	0	0				
その他	1,600	1,018	1,492	1,101	768	0				
一般財源 (税等)	222	366	256	200	743	718				
所要人数 (人)										
正規職員	2.07	2.06	1.96	2.04	1.96	1.17				
正規職員以外	1.90	2.29	1.90	2.86	1.90	1.27				
主な予算内訳										

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標 利用団体数	団体数	目標値	150	150	50		
		実績値	81	100	44		
		達成度 (%)	54.0%	66.0%	88.0%		
活動指標 自主事業開催数	回	目標値	12	12	3		
		実績値	12	12	1		
		達成度 (%)	100.0%	100.0%	33.3%		
成果指標 年間利用者数	人	目標値	15,000	15,000	5,000		
		実績値	9,680	9,040	3,542		
		達成度 (%)	64.0%	60.0%	70.8%		
成果指標 主催事業の満足度 (満足と回答した件数/回答件数)	%	目標値	100	100	100		
		実績値	100	100	100		
		達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%		

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか		できる		あまりできない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか		できない		制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				できない
				達成していない(70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	
見直し・改善内容	